

就任のご挨拶



一般社団法人日本エレベーター協会
会長 川崎 幹

第73回通常総会でご承認を頂き、藤澤孝会長の後任として会長に就任いたしました川崎幹でございます。一般社団法人日本エレベーター協会の会長という重責ではございますが、微力ではありますが全力で「昇降機事業の健全な発展」及び「利用者の方々の安全確保」という業界の社会的使命を引き継いでいく所存です。特に、昇降機の据付、保守における従業者の安全に関しましては、重篤災害の発生0（ゼロ）に向けた労働災害発生防止の取組みを引き続き推進展開してまいります。何卒よろしく願いいたします。

さて、国内の建設市場におきましては、2021年東京オリンピックが閉幕し、大規模開発等は一服感がありますが、ビッグプロジェクトは休みなく進行しています。首都圏では首都高速道路の日本橋周辺における地下化工事、近畿圏では2025年の大阪国際博覧会開催等、また交通においては東京・名古屋・大阪を結ぶリニア中央新幹線と関連する都市開発などが目白押しとなっています。また国内各地のインフラ設備が老朽化しており、建替え・メンテナンス需要が大きくなっています。一方で2021年の建設業界は原材料の高騰による建設費の圧迫、人材需要の高まりなど、厳しい状況に置かれていたことも事実ですが、2022年の動向は、新築住宅や省エネ住宅の建設需要の高まりが予測されると言われています。

そのなかで、昇降機業界を取り巻く市場環境は、近年の高齢化に伴う公共施設やビル内、マンション内のバリアフリー化が需要の原動力となって益々期待されるものになってきています。一方、コロナ禍を受けて広がるテレワークやソーシャルディスタンスの浸透が、需要の大きな変化をもたらす可能性も指摘されています。セキュリティの強化や待機時間の短縮などを、IoT技術の活用で自動化したエレベーターに代表されるIT化も進むとみられます。昇降機への社会的要請は「利用者の方々の安全確保」の更なる訴求はもちろんのこと、昇降機の「ニューノーマル（新常态）」に向けた対応、社会インフラの老朽化への対応など多様化を呈してきており、市民生活や企業活動に不可欠なライフラインとして益々その重要性を増しております。

当協会は、これまで通り積極的に法令改正への対応及び周知に取り組むとともに、JEAS及びJEABの制定を推進してまいります。エレベーター、エスカレーターの安全な利用の周知活動として、11月10日の「エレベーターの日」の活動を中心として、全国各地の公共団体や鉄道事業者様をはじめとする多くの団体や企業と連携した活動を推進してまいります。

最後に、会員各社をはじめ、監督官庁、関係諸団体の皆様と連携しながら、業界の窓口として各種課題に取り組む、昇降機業界の継続的な発展に繋げてまいりたい所存です。

今後とも、皆様方からの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。